

事業内容① 都民への普及啓発

資料 4

令和 6 年 1 0 月 2 日
第 1 回 ACP 推進部会資料

事業方針

都民が自分自身の希望するケアについて考えられるようになる

◎ 自分が希望するケアを考える本人

一人一人が自分の人生について「大切なもの」「よりよく生きる」とは何かを考え、医療や介護について、家族や医療介護従事者と話し合い、自分以外の人に希望を共有しておくことで、自分の望まない医療と介護を避け、自己意思が尊重された医療と介護を受ける準備を進めることができるようになる。

◎ 本人に関わる支援者以外の家族及び関係者

身近な人、大切な人の医療・ケアについて考え、話し合いに参加できるようになる。

取組の柱

・積極的医療だけでなく、治し支える医療について啓発し、終末期の医療・ケアに対するイメージを都民が持てるようにする。

（選択肢の提示）

・社会の中で「自分の人生の最終段階」について考え、話すことがポジティブに受け止められる雰囲気の醸成

（本人・家族における話し合いの重要性の認識）

・自分または家族の医療・ケアについて考え、家族間で話し合う機会の創出

（きっかけづくり）

令和 2 ～ 5
年度の取組

○ 「わたしの思い手帳」を作成・配布し、都民自身が希望する医療・ケアについて考える機会を創出。

※ 4 年間で 16.5 万部（本編・書き込み編計 33 万冊）を印刷・配布）

○ ACP 普及啓発のためのリーフレットを作成。サンプルを区市町村、各関係団体、病院等に配布。（R 5）

区市町村、医療機関、介護施設等が印刷して活用できるよう、PDF データを東京都の HP に掲載中。

令和 6 年度の取組
（案）

○ 「わたしの思い手帳」、リーフレットを活用した普及啓発の促進

○ **更なる普及啓発方法の検討**

（R5 ACP 推進部会の主なご意見）

- ・「ACP」という言葉を前面に出さず、「わたしの思い」「これからどう生きたいか」など都民に関心を持ってもらいやすい言葉を打ち出す広報を行う
- ・入院時や外来時、地域包括支援センターと関わるタイミング等、都民が機会を逃さず ACP に取り組めるよう、重層的に普及啓発に取り組むことが大事
- ・「わたしの思い手帳（書き込み編）」のデジタル化の実施（＝ ACP 特設サイトの開設として検討）

ACP特設ページの開設について（案）【1 / 2】

令和6年10月2日
第1回ACP推進部会資料

現状

- ①インターネット福祉保健モニターアンケート（R4）によると、ACPを「知らない」が64.6%、「聞いたことはあるがよく知らない」が21.3%で、8割以上の都民がACPについてほぼ知らないと回答（世代間による結果の差はほぼなし）。
- ②都におけるACPの普及啓発の主な手段として、「わたしの思い手帳（本編/書き込み編）」を郵送にて配布。本編/書き込み編ともにPDFデータをHPに掲載。
- ③「わたしの思い手帳（書き込み編）」に自身の思いを書き込むには、冊子を郵送等で入手するか、HPからPDFデータをダウンロードして印刷した上で書き込む必要がある。

課題

- ①より一層の都民への普及啓発が必要。高齢者はもちろん、若い世代（本人のACP、本人の親のACP）に対する普及啓発にも取り組む必要。
- ②「わたしの思い手帳（本編）」を端末上で閲覧するにはデータを端末にダウンロードしなくてはならず手間がかかる。またスマホやタブレットで閲覧するには、目的のページにすぐにたどり着くことができない等の不便さがある。
- ③「わたしの思い手帳（書き込み編）」に端末上で記入することができず、データとして保存することができない。

取組の方向性

幅広い世代、特に高齢者を親に持つ若い世代への普及啓発を目的として、**ACP特設ページを作成**する。

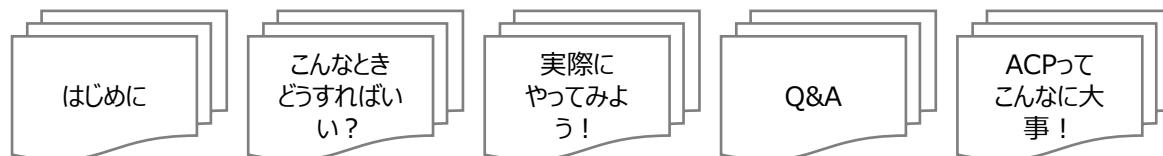
ACP特設ページの開設について（案）【2／2】

令和6年10月2日
第1回ACP推進部会資料

特設ページ（案）

トップページ

web版「わたしの思い手帳（本編）」



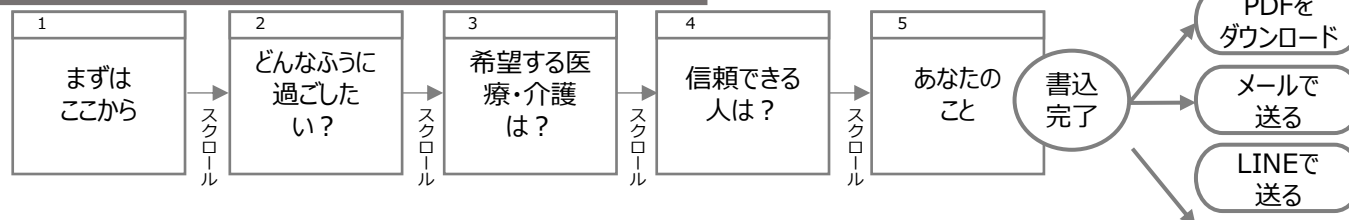
【ポイント①】

ITリテラシーが十分でない方も容易に活用できるよう視認性、操作性の高いページを作成し、幅広い世代へ働きかける。

【ポイント②】

Web上のコンテンツとして「わたしの思い手帳（本編）」を閲覧できるようになる。

web版「わたしの思い手帳（書き込み編）」



【ポイント③】

自分の端末上で「わたしの思い手帳（書き込み編）」に記入できるようになる。更に、家族等や医療介護関係者との共有も便利に。

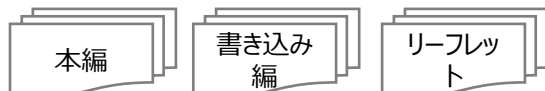
電子ブック



【ポイント④】

電子ブックで冊子を閲覧できるようになる。

PDF



関連リンク集

- ・ 厚労省ページ
- ・ 各自治体の取組のページ
- ・ その他

【書き込みページのイメージ】

画面スクロール
に連動して
ページ遷移

大項目

小項目

テキスト
入力エリア

ACP特設ページについて

ページへのアクセスについて

- デジタル化にすることによって使いやすくなる、見やすくなるというのはすごくいいと思う。書き込み編も端末上で記載しやすくなるだろう。
- ページに容易にアクセスできる仕組みが必要。ACPという単語を知らなくても、アクセスできるように。
- ページにすぐにアクセスできるQRコード付きのポスターを病院内に掲示すると、普及に繋がるだろう。

取組の方向性（案）

- ✓ 容易にページにアクセスできるよう、QRコード付きのポスターやリーフレットを作成
- ✓ 関係団体や区市町村、医療機関等に対し周知依頼
- ✓ 都の発行物（広報東京都等）やSNS（X（旧Twitter）等）、各種イベント（研修や講演会等）等で周知

デジタル版「わたしの思い手帳（書き込み編）」の仕組みや取扱いについて

- 以前書き込んだ内容が消えないような仕組みがあるとよい。
- 一番最後に書いたものが最新版であるということが分かるようにできるとよい。
- 書き込み編のデータの扱いについては、ACPの本質とかかわるので、詰めたほうが良いだろう。例えば、自分の思いを書き込んだデータを家族等に共有し、そのあと思いが変わって書き直したけれど送信していなかった場合、どうするか。
- 書き込み編に書き込んだ自分の思いを、ケアしてくれる人や家族など、一番大事な人に見ておいてもらう必要がある。
- 「一回書いたものについて、改訂がされた時には新しいもののほうが優先される」等のルールづくりが必要だろう。例えば遺言は、新しいものが優先されるといったルールがある。
- 将来的には、書き込んだデータが医療機関等に届いたときにどういう効果を持つのかみたいなことも問題になるだろう。

取組の方向性（案）

- ✓ デジタル版「わたしの思い手帳（書き込み編）」に書き込んだデータには、日付が印字される仕組みとする。
- ✓ デジタル版「わたしの思い手帳（書き込み編）」の運用ルールについて、引き続き検討を行う。

ACPの普及啓発について

- 定年退職間近の方や、第二の職場を退職する年代の方（特に女性で一人暮らしを長く続けてきた方）は、ACPに関心がある人が多い。産業保健の分野に働きかけるなど、そういった人たちへの普及啓発を進めてみてはどうか。
- 都民自らがACPの発想を持てるよう、若い頃からの教育が必要ではないか。

取組の方向性（案）

- ✓ 若年層や、定年退職間近の方への普及啓発の方法を検討する。（ACP特設ページの普及啓発時等）

ACP全般について

- 単身世帯が増えているほか、家族疎遠なケースもあり、市で課題になることが多い。そういった方達を意識してほしい。
- 診療報酬改定で病院でACPのマニュアルを作成するようになったが、今後は様々な疾患の患者に対応できるようにする必要があるのではないか。

取組の方向性（案）

- ✓ 単身独居の方や様々な疾患の方等のような方でもACPに取り組めるよう、医療介護関係者に対する研修において引き続き実践的な事例を取り上げ、さらに研修内容の充実を図っていく。